

加齢に伴う眼疾患に対する新規 低分子医薬の創製

岩手大学理工学部 准教授 尾崎 拓◎
ルネジェンス合同会社 代表 伊藤 かおる○

◎プロジェクトリーダー・○サブリーダー



尾崎 拓
(岩手大学)

■ 研究開発のねらい

我々はモノを見る時、目の中に入ってきた光を網膜という組織で受容する。その網膜の中心部を黄斑と呼び、この黄斑部にある網膜色素上皮細胞ならびに視細胞が加齢とともに変性して、視力の低下を引き起こす眼疾患のことを加齢黄斑変性という。本疾患には萎縮型と滲出型の2種類に分類され、萎縮型は黄斑の組織が加齢とともに変性するものであるが、有効な治療薬および治療法は未だ存在しない。この現状を鑑み、本研究開発では、萎縮型加齢黄斑変性に対する点眼薬剤としての新たな低分子医薬を創製することを目的とする。

■ 研究開発の内容

本試験では低分子化合物を加齢黄斑変性モデル動物に点眼投与して、その薬効および安全性を検証する。さらに、本低分子化合物について、萎縮型加齢黄斑変性に対する点眼薬としての製薬デザインのコンセプトを確定する。そのデザインコンセプトに基づき、既存薬剤、製薬企業のデータ収集などのマーケットリサーチを行い、収集データを基に事業化候補製薬企業への導出を目指す。

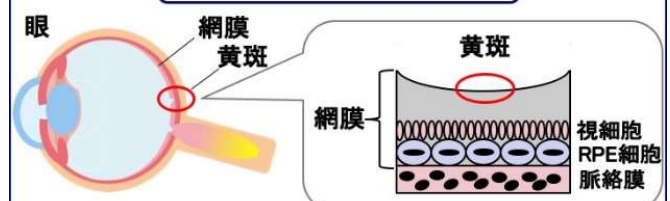
図1

加齢黄斑変性患者の見え方



図2

加齢黄斑変性 (AMD)



- ・ 後天性の失明原因第3位
- ・ 加齢による黄斑部の細胞変性が原因
- ・ 喫煙, 生活習慣の乱れ、遺伝なども関与
- ・ 中心視野の歪み → 中心暗点 → 失明
- ・ 萎縮型AMDの治療法はない

● その他特記事項

本シーズを市場化することによって、コロナ渦で低迷する雇用の面において、県内企業に製造ならびに販売などを委託することで雇用拡大・雇用促進が期待できる。

